

「高品質な果実等を提供するための流通技術の実証研究」 中間検討会

「高品質な果実等を提供するための流通技術の実証研究」の中間検討会が、平成25年11月7～8日に開催されました。1日目は、宮城県農業・園芸総合研究所のオープンラボにおいて、研究課題の中間成績の検討と総合討議が行われました。「個人携行輸出のためのリンゴの生産技術の開発」や「品質保持包装資材の開発」、「販売モデルおよび輸出システムの開発」などの研究課題についての検討が行われました。

2日目は、農業・園芸総合研究所と現地圃場の視察が行われました。農業・園芸総合研究所内のリンゴ圃場では、隣接する樹を接ぎ木で連結するジョイント栽培について視察し、品質の均一化や作業効率の向上などのメリットについて説明を受けました。

その後、山元町内にある果樹生産・利用技術の実証圃場とその生産者の田所食品株式会社を視察しました。実証圃場では、ブドウやキウイフルーツ、レッドカーラントなどを栽培しており、塩害を回避するための根域制限栽培システムを視察しました。また、造成中の果樹の実証ほ場も視察しました。

< 研究課題の検討（オープンラボ） >



< リンゴ圃場（農業・園芸総合研究所） >



<リンゴのジョイント栽培>



※ジョイント栽培：隣接する樹を接ぎ木で連結し、直線上に仕立てる方法。

<現地実証圃場（田所食品株式会社）>



<蓄電式ソーラー自動灌水装置の説明>



< 田所食品株式会社（現地実証圃場の生産者） >



< 造成中の果樹の実証圃場 >

